

パイロット事業第1期生への提言第2弾

「三焦鍼法創世記」 三焦鍼法生命力スコア (S-VFS) と病気の改善

一般社団法人老人病研究会会長
日本医科大学名誉教授 川並 汪一

三焦鍼法との歩み

十数年にわたり、中国天津の韓景献教授や多くの鍼灸師たちとともに三焦鍼法の研究と臨床実践を続けてきた。軽度認知障害、認知症、新型コロナ後遺症、自律神経障害などの患者と向き合う中で、単なる症状改善だけでは説明できない、深く大きな経験をしてきた。

病気を越えた問い

眠れなかった人が眠れるようになる。食べられなかった人が食べられるようになる。歩けなかった人が再び歩き始める。笑顔を失った人が笑顔を取り戻す。病気の改善はもちろん重要です。しかし私たちは、その変化を見続けるなかで一つの問いにたどり着きました。本当に改善しているのは病気そのものなののでしょうか。私たちが目の前で見ているのは、人間が本来備えている「生きる力」の回復ではないのでしょうか。

本稿は、その問いから生まれた物語です。そして、パイロット事業への参加を検討する方々に向けた基本参考資料の第2弾でもあります。これは鍼灸に限った話ではなく、病気の治療や回復に対する人間の根源的な反応について考えるための内容です。

第一章 病気ではなく生きる力を見る

家族の顔も分からなくなり、昼夜逆転し、食事もほとんど摂れなくなっていた。歩くことも少なくなり、部屋の片隅で静かに座っている日々が続いていた。三焦鍼法を継続するうちに変化が現れた。まず眠れるようになった。次に食欲が戻った。やがて歩き始め、家族に挨拶し笑顔を見せるようになった。認知機能検査の結果に劇的な変化はなかった。しかし家族は涙を流しながら語った。「母が帰ってきました」その言葉は私の胸に深く残った。

病気の改善と生命^{いのち}の回復

私たちは認知症を診ていたのではなかった。生命^{いのち}の回復を見ていたのである。病気の改善とは、生命機能（生きる力）の回復結果として現れる現象の一つに過ぎない。眠る力。食べる力。動く力。人とつながる力。希望を持つ力。それらが回復するとき、人は再び人生を取り戻し始める。

三焦鍼法が見つめるもの

三焦鍼法の目的は病気そのものを追いかけることではない。気・血・津液の循環を整え、人間が本来持っている生命力、回復力、適応力を呼び覚ますことである。三焦鍼法とは、病気を見る医学ではなく、^{いのち}生命を見る医学といえるかも知れない。

第二章 SPACE という五つの生命力に気づく

私たちは患者の変化を数多く見てきたが、それを客観的に示す言葉を持っていなかった。生命そのものを測ることはできない。しかし生命が働いている姿なら観察できるのではないか。そう考えた。

五つの生命力（機能）

そこで私たちは生命機能の基本を五つの領域に整理してみた。

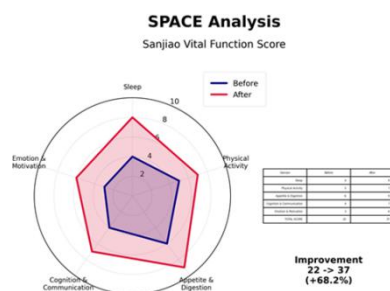
Sleep（睡眠）、Physical Activity（身体活動）、Appetite（食欲・栄養）、Cognition & Communication（認知・コミュニケーション）、Emotion & Motivation（感情・意欲）
これらをつなげると「SPACE」になる。

S-VFS（三焦鍼法生命力スコア）の誕生

よく眠れる。よく食べられる。よく動ける。よく語り合える。よく希望を抱ける。

これらは人が人として生きるための基本条件である。そこで私たちは

S-VFS（Sanjiao Vital Function Score）という三焦鍼法生命力（機能）評価法を考案した。



生命力（機能）ゾーンという発想

五つの項目を評価しレーダーチャートで表現すると、その人の生命力（機能）の広がりが見えてくる。私たちはそれを生命力（機能）ゾーンと呼んだ。病名ではなく、生命の広がりそのものを見ようとする試みである。

第三章 気とは何か

東洋医学の概念に「気」がある。しかし気とは何か。その問いは長年私の中にあった。

気の現れ ある鍼灸師が語った。

「鍼をすると患者さんの顔色が変わるのです」それは確かな事実だった。良くなる患者には共通した変化がある。目が輝く。声に力が出る。呼吸が深くなる。姿勢が変わる。検査結果よりも先に生命力が変化を語り始めるのである。

風を見ることはできない

私は次第に考えるようになった。気とは物質ではなく生命現象そのものではないか。風を見ることはできない。しかし木々の揺れを見ることで風の存在を知ることができる。同じように気そのものは見えなくても、その働きは観察できる。

SPACE は”気”の観察表である

よく眠れる。よく食べられる。よく動ける。よく考えられる。よく笑える。これらはすべて気の現れである。SPACE とは、気の働きを観察する有力な指標といえるかも知れない。

第四章 百歳への挑戦

ある九十四歳の男性がいた。背中が曲がり、歩行もゆっくりだった。しかし彼の目は驚くほど輝いていた。施術中、彼は言った。「まだやりたいことがあります」

本当の老化とは何か

彼は八十歳で水彩画を始め、九十歳でパソコンを学び、九十四歳になっても新しい世界へ挑戦していた。その姿に私は教えられた。老化とは単に歳を取ることではない。

希望が支える生命

本当に恐ろしい老化とは未来を失うことである。挑戦する心を失うこと。夢を失うこと。生きる理由を失うことである。希望は生命の最も深い機能の一つなのである。

寿命ではなく生命の密度

三焦鍼法が支えているのは寿命ではない。生命の密度である。何年生きたかではなく、どれだけ生きたか。その問いに私たちは向き合っているのである。

第五章 共鳴する生命

認知症患者が眠れるようになる。すると家族が元気になる。家族が元気になると患者もさらに元気になる。私はこの光景を何度も見てきた。患者さんだけが元気になるのではない。

孫が運んできた未来

妻を亡くした高齢男性がいた。食欲を失い、歩かなくなり、会話もしなくなった。だが孫が毎週訪ねて来るようになると変化が始まった。「今週も来るかな」そう語るようになった。

人は一人で生きていない

やがて彼は食事を摂るようになった。散歩を始めた。身だしなみにも気を遣うようになった。身体が変わったのではない。未来が戻ったのである。

生命の共鳴

生命力とは個人の能力だけではない。人と人との関係の中で育まれる力でもある。私はそれを「生命の共鳴」と呼びたい。希望も勇気も生命力も人から人へ伝わっていくのである。

第六章 生きる力の源泉

三焦鍼法を続けていると患者はときにこう語る。「外へ出てみようかな」「友人に電話しようかな」「もう一度挑戦してみようかな」身体より先に心が動き始めるのである。

私は確信している。医療の目的は病気を治すことだけではない。人生を再び動かすことである。患者の中に眠る希望を呼び覚ますことなのである。医療の本当の役割である。

第七章 ^{いのち}生命の継承

伝えておきたいことがある

百歳を超えた女性がいた。ある日彼女は静かに言った。「私はもう十分生きました」そして続けた。「でも子どもたちに伝えておきたいことがあります」私は深く心を打たれた。生命の継承とは遺伝子だけではない。経験である。知恵である。愛情である。生き方である。人生の物語そのものなのである。

鍼の技術を超えて

振り返れば三焦鍼法も同じだった。古典から学んだこと。韓景献教授から学んだこと。患者さんたちから教えられたこと。仲間と積み重ねてきた経験。それらを次代に手渡していくことが私たちの使命である。

私は若い鍼灸師たちに伝えたい。最も大切なのは技術ではない。生命を見る眼差しである。人間への敬意である。「三焦鍼法創世記」を書き始めたとき、私は一つの治療法の歴史を書こうと思っていた。しかし今、その考えは変わった。

これは生命の物語だったのである。人が人を支える物語だったのである。三焦鍼法とは、生命の流れを整え、生きる力を支え、生命の灯を未来へ手渡す医学である。新しい始まりである。生命は巡る。気は巡る。志は巡る。その流れが続く限り、三焦鍼法の物語もまた、書き続けられていくのである。

以上、この物語はパイロット事業を担う第1期生への「気の送り」である。